開催報告

2025年6月6日（金）13:30～15:00、研究大学コンソーシアム「学術情報流通の在り方に関する連絡会」主催による、学術情報流通に関する連続セミナー（第8回）「科学技術政策の中のオープンアクセス：遥かなるEBPMへの道」を開催しました。

今回は、岩手県立大学総合政策学部の杉谷和哉准教授を講師にお迎えし、日本における科学技術政策の概要と、オープンアクセス（OA）の政策的な位置づけの変遷についてご講演いただきました。また、OAが「証拠に基づく政策立案（Evidence Based Policy Making：EBPM）」を推進する役割についても解説がありました。

一方で、質の保証が不十分なOA文献が与える悪影響への懸念、専門知が必ずしも政策課題の解決に直結しない点、そして政策判断の場における専門知の扱いの難しさといった課題も指摘されました。EBPMの限界を踏まえつつも、専門知を広く公開するというOAの意義について、改めて考える貴重な機会となりました。

質疑応答は、北陸先端科学技術大学院大学の小泉周副学長によるファシリテーションのもと、会場およびオンライン参加者から活発な意見が寄せられました。EBPMに内在するバイアスや、政策・実務への応用の難しさに関する質問が多数あり、多角的な視点から議論が深まりました。

講演後には、会場にて講師を囲んだアフターセッションも行われ、参加者との活発な意見交換が続きました。

■参加者数 211 名（対面29名、オンライン 182名）

■アンケート結果 回答数：79

〇職種

大学職員（図書系）：39 、URA：14、大学職員（研究推進系）：6、大学教員・研究職：7、出版関係者：2、その他：12

〇機関

国立大学：54、私立大学：8、公立大学：3、国立研究機関・官公庁：6、民間企業：3、その他：6

〇セミナーは参考になりましたか

参考になった：62

まあ参考になった：15

〇ご意見・ご感想　※公開の同意をいただいたものです。

- 研究的知見のクオリティコントロール等、オープンアクセスの意義と限界（問題点・留意すべき点）が整理されてとてもよい講演でした。研究データの公開は今後の潮流です。研究データの質の確保は、研究者自身が主体になるでしょうが、スタッフとして、研究推進支援部門、図書館部門がどのようにコミットしていくべきか、ご示唆いただきたいと思い

ました。

- 杉谷先生の本を以前読んで、大変面白かったため、今回お話が聞けて嬉しかったです
- 識者のお話はいつも共感するばかりで、世の中の認識も似たようなものらしいのに、現実はそうして示される課題解消にはなかなか向かいませんね
- 政策としてのOAについてご説明いただいて大変勉強になりました。ありがとうございました。
- 生成AIの急速な利用普及や、アメリカ政権の方策など、研究のオープン化は本当に望ましい社会を創出するのでしょうか。どれだけ科学的な正しさ（エビデンス）も、理解しやすい（あるいは個人の利益に資する）という共感性には何ら無力に感じます。また、その科学的正しさも本質的な正しさなのか、多数決で決まるような危うさを含みます。それでも私たちはデータを公開し続けることに「正義」を覚えるのでしょうか。あるいは予期しない不幸な未来をもたらすエビデンスを提供することの片棒を担ぐことになるかもしれません。そのような覚悟を図書館（機関リポジトリ）は持っているでしょうか？
- 政策に影響を与える業績の評価、という観点は必要だと思いました。EBPMや偉い人の意見にとらわれすぎず、塩梅よくやっていくには、本当に大変と痛感しました。
- 講師の先生のお話がおもしろく、とても説得力がありました。EBPMはとにかくよいこと、というイメージしかもっていませんでしたが、政策決定においては盲目的にエビデンスを過信するのではなく、考えなければならないさまざまな側面があると気づくことができました。オープンデータ、オープンサイエンスとの親和性も高いことが、本日のお話を通じて理解できました。どうもありがとうございました。
- ご講演は大変興味深く、参考になりました。登録参加者対象には、後日、オンディマンド動画が開示されるなら改めて拝聴したいです。
- 難しいお話を分かりやすくご説明いただき、大変有意義な時間となりました。大学図書館員としてオープンアクセスの推進に努めるとともに、従来からの図書館の役割の一つである、データリテラシーや情報活用能力の教育も引き続き行っていくことが重要なのだろうと認識しました。
- 楽しいお話をどうもありがとうございました。冷徹に人間社会の現実を見据えたうえで、できることを合理的に探していく姿勢に得心しました。
- 科学技術政策の中でのEBPMの位置取りを赤裸々にご講演いただき、大変、刺激的でしたし、理解が進みました。最後のパートの問いに対しては、専門知だけでは実社会では機能しないこともあるが、しかし、知識が我々の社会を良くするのだ（さらにいえば、課題解決だけではなくて、文化的にも豊かにするのだ）、だからこそオープン化を推進したいと考えています。
- 非常に興味深いお話をありがとうございました。政策とオープンアクセスの悩ましい関係を的確に言語化していただいて、これまでのモヤモヤが形になり、非常に理解が深まりました。理想と現実を埋める役割（ないし意識）が、関係者それぞれに求められていると認識しました。
- 本日のお話でOA/OS化にかじを取ることになった政策的な背景と科学者の観点からどう考えるべきかがよくわかりましたが，果たしてそれが産業界，教育界，医療分野など広く議

論されてコンセンサスが得られたことなのかに疑問を感じました。

- おもしろすぎる話で、勤務時間内での視聴に罪悪感を覚えました
- OA義務化と言われ、リポジトリを運営しているのでやらざるを得ないのだが、教員も他部署の職員も関心がなく、オープンアクセスの意義に全く現実味がない。そういう中で今日の話は「ほんの少しだけ」取り組む意味を感じられた。
- 本日の講演は非常に興味深く拝聴させていただきました。政策に参考になる研究成果が、学術的には評価されにくいというのは難しい問題だと思います。その架け橋になる部隊が必要であると感じました。
- EBPMに行政のデータが役立ったなどの記事を読んだことはありましたが、実際オープンアクセスとEBPMがどのように関わって、どのような成果を生めるかはまだまだ知識不足なので、知りたい気持ち、興味が湧きました。今回のセミナーは大変解りやすかったので、これを機にさらに関係文献を読んでみたいと思います。
- まず、EBPMとは何か？から勉強させていただきました。政策を考える者と研究者とでギャップがあるということに大変納得しました。
- ご講演は「すべてのEBPMは始まった時点でPBEMではないか？」「エビデンスにもバイアスがかかってる可能性がある」等、EBPMへの警鐘というか注意喚起が印象的でした。本セミナーに初めて対面参加し、図書館関係の参加者が多いことを知りました。他機関の方と話ができたのも大きな収穫です。ありがとうございました。
- EBPMの実現には研究成果へのアクセスが不可欠であり、そのためにはオープンアクセスの推進が重要であることを改めて認識しました。
- 今日はとても勉強になりました。みなさんに快く歓迎していただいて感謝しております。またよろしくお願いします。
- 近年の科学技術政策の経緯をさらったうえで、その問題点をオープンアクセスやオープンサイエンス、EBPMについての議論と絡めて展開していたのがとてもわかりやすかった。
- （学術論文等の即時OA化に関連して）出版界におけるダイバーシティ、資金の流れおよび予算の再編成、研究および研究結果発表の機会の平等をどのように確保するか、等
- EBPMについて予備知識があまりない状態での参加でしたが、とても分かりやすくご説明いただき面白く拝聴できました。また、アフターセッションでは他参加者と交流する機会をいただき大変有意義な時間となりました。ありがとうございました。
- 業界について理解を深めるため、今回含め数回参加させていただいています。専門の先生方からお話を聞く貴重な機会となっています。茶話会では、コーヒーとお菓子をご馳走様です。色々な方とお話しができました。いつも細やかにご配慮いただいた運営をありがとうございます。
- 林業関係でも、NHK記者のnote記事にあったように県や市町村に専門知識を持った職員がおらず、各地で国の文書をコピペすることで森林経営計画を練るという状態があり、公務員部門と実務部門（現場）でそれぞれが科学的知見を持った計画や、あるいは現場の声の大きい人間に押し通されないようにすることの必要性を感じた。図書館といえば、かの船橋市西図書館蔵書破棄事件のように、「特定のイデオロギー」に染まった司書による暴走を常に危惧するところであるが、杉谷先生はこうしたえぐい懸念材料に対する対策はお持

ちなのか知りたかった。

- 事前資料を拝見した時は「この内容について行けるだろうか…」と不安も覚えましたが、当日は、杉谷講師の快活にして明快なお話に魅了され、会場も盛り上がり、いい雰囲気の中で濃い内容を自分なりに腹落ちする理解ができたように思います。また、質疑応答では、学生の方が質問に立たれていて、参加者の多様性の面でも、とてもよいセミナーだと感じ入りました。複数の講師から発表を聞くというセミナーも悪くはないですが、こちらでは、今後もこのような講師1名からじっくり話を聞くという贅沢な方式を続けていただきたいと思います。

○今後、セミナーで取り上げてほしいテーマ　※公開の同意をいただいたものです。

- 研究データの公開の方途と研究データの質の確保について
- 少子化の背景の上、大学と経営（稼ぐ大学）、大学とは何か。
- OAについて社会貢献とあるが、ＯＡ自体を知らない大学生や一般の人が大部分だと思う。こちらについて、実際に社会貢献に結びつくような広報について、図書館だけに任せるのではなく、その他の実施方法について、図書館員と別の立場で考えていただきたい。
- 日本の森林政策
- 論文以上に様々な波及効果（影響）を起こす可能性があることが予想されるデータの公開についての今後の行方
- 機関リポジトリの運用について「公開プラットフォーマーとしての責務」を機関全体で考えているか？
- 海外(特にEU，韓国，シンガポール)のOA化に対する財務的な対応の実情
- デジタル時代の、物理の本やスペースを有する図書館の活用について
- 研究IRの活用について
- いよいよ始まる即時論文オープン化に向けた取り組みなど
- 研究インパクトと評価指標の多様化
- 安全なコミュニケーションとコミュニティの在り方の提案、VRと情報、孤立の解消、SNSとライフスタイル
- 文系の研究データ公開について
- 幅広く、若手研究者からの話を伺いたいです。
- 科学技術政策の歴史（既出でしたら申し訳ありません。今回のセミナーの前半でも触れていた内容をもっと深く伺いたいです）
- （学術論文等の即時OA化に関連して）出版界におけるダイバーシティ、資金の流れおよび予算の再編成、研究および研究結果発表の機会の平等をどのように確保するか、等

写真

講演を行う杉谷和哉岩手県立大学総合政策学部准教授

杉谷准教授の講演を聞く参加者

杉谷准教授を交えた茶話会の様子